

8番（上野淑子君）〔登壇〕

ただいま議長より登壇の許可を得ましたので、8番上野、一般質問をさせていただきます。

本当に先ほど来、午前中のたくさんの議員の方から高校総体についてはうれしい、本当にありがたい、私と同じ気持ちを伝えていただきました。先ほど婦人会のほうにレモングラスのおもてなしをしていただいたというお話でしたけれども、武雄駅で私たち婦人会もレモングラスのおもてなしをいたしました。たくさんの他県の高校生たちと、そこでいろんな話もできて、本当に高校総体ってすごいなというような熱い気持ちを私たちも受けたところでございます。

そこで1つ、これはちょっとつけ加えですけれども、レモングラスのことでですけれども、他県の方がレモングラス、これはここに売ってありますかと言われたんですよ。いや、今開発中で、もうすぐできると思いますという返事をしたんですけれども、急いで製品になればいいなと思いました。

そういうことで、本当に高校総体で私たちも燃えました。それからまた、北高の優勝では感動をもらいました。本当に思い出深く、猛暑だったけれども、いい夏を過ごすことができました。そしてまた、私たちは青少年育成に携わる者として、高校生たちからもらったこの元気を、これから先の青少年育成になお一層力を注いでいかななくてはならないなと心を新たにしたところでございました。

では、早速さきに通告しておりました質問に移らせていただきます。

防災については、たくさんの方が質問していらっしゃいますが、私の質問です。

今現在、それぞれもう地球上で起こってはならない、起こらないと言われていることが次々と起こっております。今、我が佐賀県でも、佐賀県に限ってそがんことがあるもんかというようなことがいろいろと起こっております。

そんな中で、どの市町も防災については課題を抱えている中、我が武雄市は、先ほど話もありましたけれども、2日に全市において防災訓練が行われました。今の時期、本当に大変有意義なことであったと思っております。あくまでも仮定としての訓練で、とっさの非常時には想定できない問題が起こってくるとは思いますが、まずは訓練の道しるべとして、この日の防災訓練は本当に評価に値するものだと思います。

私は北方町の防災訓練に参加させていただきました。消防団の方の素早い行動、各戸への避難誘導、土砂災害のビニールシート張り、土のう運びの連係プレー、災害食づくりなど、真剣な訓練風景に消防団の存在の大きさを感じたところでございます。いつもは、ああ、火事を消してくんさる消防団がある、ありがたいなと思っていただけでしたけれども、これほどまでに地域に災害があったときになくてはならない存在であるかなということを強く感じ、心強く思って参加させていただきました。

そして、この防災についての質問に入りますが、今、この武雄市の安心・安全なまちづく

りの防災計画は全体的にはどのようになっているのかなということをお聞きして、私の質問に入らせていただきたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

武雄市での防災計画といえますか、状況について御説明申し上げたいというふうに思います。

まず、全体的な統一した取り組みということでは、CATV、自主放送2チャンネル、それからお天気チャンネルの3チャンネル、これで災害文字情報として提供をいたしております。それから、火災発生時には同時に消防関係者にメール送信を行っているところでございます。あと、それぞれの特徴ある取り組みといたしましては、若木町、武内町においてはオフトークが使われております。それから、山内町におきましては防災行政無線、これは移動系でございまして、駐在員、消防車両、小・中学校、総務課等に32台を設置いたしております。それから、北方町におきましては防災行政無線、これは戸別受信機と、屋外拡声装置につきましては町内31カ所に設置をして情報の伝達を行っているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に前向きに丁寧な計画実施、ありがたく思っております。

私は情報伝達のみならず質問をいたしますけれども、今のところで一住民として詳しくしてあること、本当に感謝しているところでございます。ただ、私はこの防災の情報の伝達について、あらゆるところで、隅々までは行きませんが、たくさんの方々いろんな意見をお聞きしに参りました、聞いてまいりました。そのときに、質問はただ1つですけれども、もし災害があったときにあなたはどこに逃げますか、どんなした方法でが一番わかりますかということで、老人会とか婦人会とか、いろんな集合のところに言って聞いてまいりました。

そのときに話し合ったときに、自分たちはどうしていいかわからないという不安の声をたくさん聞いたんです。何でわからないんですかと聞いたら、避難場所がわからない。先ほども出ておりましたけれども、避難場所がよくわからない。それから、どこに行ったらいいのか、それからもう1つ　まだたくさんありますけれども、ケーブルテレビとか、インターネットとか、携帯電話とか、今もありましたオフトークとか、いろんな情報の手段があるけれども、私が聞いたところ、老人会の方ですけれども、聞いたところでは、自分たちは外に出ている。ほとんど昼間は、天気がよかったりすると外に出て仕事をしたり畑に行ったりし

ています。そのときにケーブルテレビで言われてもわからない。インターネットは使い切らん、携帯電話は持たない、使用方法もわからない、そういう高齢者や病弱者にとっては、本当に災害の情報伝達ということに対しては、とつても不安が多過ぎる。じゃ、何が一番よかごたっですかということで聞いたんですけれども、外にいても家の中にいても、どこにいても一番わかるのはサイレンの合図です。私も思うんですけれども、一番身近で一番早く、一番わかりやすいのは、やっぱり一斉にわかるということはやっぱりサイレンじゃないかなと思っております。

ここでまた戻りますが、財源がない、あるものを利用してとにかくという市長の考え、私たちも思っております。ないのはわかっておりますが、市長もおっしゃったように、何を一番先にしなくてはならないかというときに、私はやっぱり市民の命を守るというのは一番のことではないかなと思っております。

そのために、聞いたところでは、災害がないからいいと、今まで災害がなかったからそんな設備がなかったですよというようなこともお聞きしましたけれども、今はないとは言えない世の中です。あると思って、私たちは命を守るために考えていかななくてはならないんじゃないかなと思っております。そこで、私は災害時の警報として、ぜひ防災無線の設置を全市にお願いしたいなと要望をしたいと思います。

本当にいろんな方法があります。先ほど部長がおっしゃったように、いろんなことを武雄市も決めておられますし、あります。でも、どれもみんなですけれども、やっぱり病弱者、高齢者にとっては緊急にいち早くというふうにはならないと思います。ぜひ防災無線をということで思っておりますが、考えをお聞きしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

災害時に情報伝達ということは、最も大事なことだというふうに考えております。ここは議員と認識が同じであります。その上で、どうでしょうか。仮に防災無線があったときにサイレンが鳴ったとする、あるいはこういう震度幾つの地震があったとしたときに、それで人間、我々は動けるでしょうか。サイレンが鳴っただけで、例えばぱっと動けるとか、僕は大阪、東京におったとき、よく地震に遭っていました。そのときに、やっぱりそういう防災無線とかあっても動けんわけですね。そういうことで、私が大事なものは、お金がないないということは後で言いますが、サイレンよりは、むしろこの地震が起きたときに、社会的弱者の方に対して、あのおばあちゃんば助けに行こうということ、あるいは障害をお持ちの方、あるいは高齢者の方が、ここに行こうということをきちんと、それは自主防災組織なり、地域のコミュニティーの力なりですが、私は災害を、2次災害を防ぐための一番肝要なところだというふうに思っております。

防災無線は、総務部に試算をさせたら5億円かかるといいます。それで5億円で、じゃ、災害がすべて2次災害が起きないようにできるか、これはできないと思います。そういう意味で、ハードの面は今、これは牟田議員であるとか松尾陽輔議員とか、いろんな質問があります。そういう意味で、どういうふうにしてやるのかというのは今検討中であります。したがって、先ほど申し上げたソフトの部分、これについては我々も強くお願いを、地域防災組織をきちんとつくれるようお願いをしていきたいと思っておりますし、日本には古来、向こう隣3軒か5軒かという言葉があると思います。それは周りのお隣さんとか近所の皆さんたちと一緒に逃げていく、避難をするということが地震のときに求められる。これは阪神・淡路大震災のときに最も強く指摘されたことだというふうに私は研究をしておりますので、そういった他事例を見ながら、今後防災については進めていきたいなというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

市長の考えはもっともだと思います。サイレンが鳴ったから、即みんな助かるかといったら、そうではないと思います。でも、今聞いた、外に出て仕事をしているという方の意見を聞いたときに、サイレンが鳴ったら戻ってケーブルテレビを見ると。そして、自分は動く。知らないでいるほど怖いことはない、だから、とにかく知らせしてほしいということでした。じゃ、防災無線じゃなくても知らせる方法はほかにもあるかとも思いますけれども、一斉にということになると、私はどうしても防災無線をとわざるを得ないんですけれども、5億円ということも試算を聞いておりました。それで、ああ、5億円もかかったら大変だなと思ったけど、人の命と比べたら、どんなかなという考えも持っております。

それからもう1つ、お金がない、お金がないというのも本当にわかっております。わかった上で、でも、私は安心して暮らせる武雄市にしてもらいたいという一念で防災無線をお願いしているんですけれども、1つ、私の住んでいる北方町の久津具は、北方は防災無線があります。ただ1つ旧町の中であるんですけれども、本当に助かっております。せんだっての大水の際に、久津具というところなんですけれども、私のところはポンプが設置されております。それで、一応大水が来ないようになったということで、本当に安心して住民はぐっすり休んでおりました。でも、雨量が多くなってどんどん水がふえてきて、もう消防団の方は出ていらっやいましたけれども、あとポンプをもう少し20センチでとめんといかん。とめられたら、うちはまた平成2年の大水みたいになってしまうんです。うちの地区というのはとにかく車を動かさないといけないのです、みんな水没しますから。だから、車を動かせる時点で全部連絡をするようになっているんです。

先ほど市長がおっしゃったように、共助、お互いに助け合うというので、ハザードマップもいち早く完成をしております。それでもって連絡をしておりましたけれども、夜中の1時、

2時ですので、なかなか連絡がつかずに本当に危ないところまで来たんです。そのときに、やっぱり無線でお願いをして、いろいろありましたけれども、結局無線で連絡していただいたんです。やっぱりこれはもう臨時、急というときには無線じゃないとだめだなと、本当にそのときに私たちは痛切に感じたんです。だから、5億円かかるところを何とかしてできないものかなと思った。

それで、近辺はどうなっているのかなと思って調べました。白石も合併してから防災無線を全部つけられました。2億円かかったそうです。私も白石はまだやろうと思って聞いたんですけどね、合併して2年かかってつくりましたよということでした。

本当に単なるサイレンですけども、要るなと思っております。私たち住民はやっぱり行政からしてもらわないといけないし、行政は市民のための行政であるし、行政は市民のため、市民は行政にいろんなことをお願いするし、協力をしなきゃならないと思っておりますけれども、とにかく一秒でも早く伝達する方法として、ほかにあればいいですけども、お金はかかりますけれども、防災無線ということは今すぐにではなくても考えていただけるものかどうか、再度答弁をお願いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

あくまでも私は防災無線が夜中あったにしても、それよりは、例えば要介護者であるとするならば、それを本人の同意のもとで、例えば登録された、これは消防団かもしれませぬけれども、救助に行く。あるいはいろんなことが起きたときに、ちょっと電話、あるいは携帯を中心にしてシステムを考えようとは思っておりますけれども、防災無線やったら、中でどうしても聞こえん場合のあるわけですね、寝室の部分とか。そうなってくると、防災無線は私は万能ではないというふうに思っております。

沖縄であるとか大阪府の高槻であるとか、私は防災無線の担当者でありました。いつも怒られておりました。何でこがんあるとけ、こがん聞こえんとかとか、いろいろ言われておりました。やっぱり災害が起きたときに、どういうことかという、恐らく地震が起きたときにサイレンが鳴って家に帰る人はおらんと思います。それよりは、自分は例えば、私は西浦に住んでいます。もう何か起きたときはすぐ武雄小学校に行こうとか、私のところにもアパートにも高齢者の方々はいらっしゃいます。あのおばちゃんにちょっと声ばかりかけていこうとか、それは個々人の、特に我々世代とか、我々よりちょっと世代の上、下がそういうふうに共助の精神を発揮して連れていったりとか、こういうふうにお知らせしたりとしたほうが、本当に災害が起きたときは効果的だというふうに思っております。

そういう意味で、私はつらい言い方になりますけれども、防災無線については否定的に考えております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

本当につらい返事だと思いますけれども、やっぱり住民の皆さんは、市民の皆さんはそれで納得されるかなとも思っております。

今、市長がおっしゃるように、本当にサイレンだけで全員が助かるかと、それはないと思います。何の場合でも100%じゃないと思いますけれども、じゃ、防災無線はしない、それで住民の方が納得をされるものかどうかですね。また、それでいいものかということです。

それからもう1つ、これは答えは一緒かも知れませんが、私もこれを言ってねと、そしてこれをこんなふうに進めていってねと言われた手前、私も帰って報告をしなくてはなりません。そのときに、今のような答弁で市民の皆さんは納得できるものかどうか。

それからもう1つ、武雄市には1つサイレンがあると聞いております。市役所に1本ですかね。それが聞こえないという意見を私のほうに出されています。聞こえんよと。もう全部に聞こえるもんね、1本で聞こえるはずはないと思います。うちでも何本でも立っておりますので、あれと思いますが、言われたことですが、せめて聞こえるごと工夫ばしてもらわれんやろうかということと、それから、それはどういう工夫なのかは技術的に私もわかりませんが、専門の方がされるとは思います。

それからもう1つ、せめてサイレンがあるんやったら調べてみますと、どこかで消防のサイレンは鳴ると思うんですけど、鳴ると思いますが、サイレンの音分けをしてもらえんやろうかということをお願いされております。どう音分けばするとねと聞いたんですけど、そがん防災無線つくっまでに時間のかかるなら、音で分けてくんしゃいと。地震のときにはウーウーかなんか知らんですけどね、それは決める。そして、火事的时候には何かですね。せめてそがんだりんしてくんさっき私たちもわかる。そして、それは本当に老人会に行ったときに、武雄の老人会に行ったときのことですけれども、緊急に決めて回してくださいと言われたんですよ。そいぎ、せめてそれでなりんわかると、何のありよこっちゃいと。それは私もちゃんと要望をしますと言いましたけれども、せめて音を分けて合図をするとか、市のサイレンを聞こえやすく工夫してみると、せめてそれはどんなでしょうかね。

それからもう1つ、今、市のほうに防災になりますけれども、ミュージックサイレンにしてくれという申し入れがあったので、一緒に行って、それは工夫してもらっておりますが、その点についてもちょっと返事をお願いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

今おっしゃるとおり、市の屋上のほうにサイレンを1つつけております。これについては、現在、今お昼どきに吹鳴をしております。ただ、このサイレンにつきましても、以前、夕方5時とか夜の9時とか出しておりました。いろんな方がいらっしやいまして、子供が起きるとか、非常にうるさいとか、いろんな意見もございました。そういったことで、1つはメロディーに変えて今行っていますし、今は昼だけと。それから、この昼に鳴らしますのは、1つは点検という機能も加わっております。これは火事のとくに鳴らしますので、その点検も含めた昼の時間に鳴らしております。

ただ、これをどういう形で全戸にというのは、今後研究もせんといかんでしょうけれども、非常に難しいことかなというふうに思っています。現状としては以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

サイレンの音分けという話がありましたけれども、音分けしよっぎ混乱すると思います。本当に、私は震度6の地震を体験したことが ああ、5ですか、あります。そのときに、音もへったくれも、もう聞こえんです。それが、いや、もうウーウー鳴りよっどですよ、それでも東京で私は被災をしたときに、聞こえんですね。もう腰も抜かしました。そのときに、いかに動けるかというのがポイントだと思います。

もし、ここが海やったら違います。浜辺やったら、私は5億円かかろうが10億円かかろうが防災無線は入れています。それはなぜならば津波の起きるけんです。津波の場合は、起きたときにやっぱり5分、10分後で、この前、プーケットでもありましたように、5メートル、10メートルになるわけですね。これは僕は無線は要ると思います。しかし、ここで考えた場合に、恐らく水害を考え、久津具の水害とか高橋の水害とか、あるいは橘の水害ば考えたときに、そこまで急を要するというのは私はないと思うんですね。1分でもう水浸しになるというのは、私はないというふうに思っております。じゃ、それがどういうことが大事かというと、そうなる前にきちんと共助の力を使って避難をするといったことが私は大事だと思います。

もとより私は防災無線が万能だというのは思っておりません。これは議員と見解が違います。これは正直言って申し上げます。しかし、私は何もやらないと言っているわけではなくて、防災無線にかかわることができるものがあるかどうか。今、若木町、武内町ではオフトークの機能を有効に使っておられます。あるいはいろんなコミュニティーFMとか、そういったことでやられておるところはあります。もう少しちょっと時間をいただいた上で、ハードの上でどういったことができるかといったことについて、もう少しお時間をいただければというふうに思います。もとより地震はすぐ起きるかもしれません。水害もすぐ起きるかもしれない。それについて、私もすぐにはやらなきゃいけないというふうには思っておりますけ

れども、もう少しちょっと時間を与えていただいて、その分、先ほど申したとおり、自主防災組織の設置に向けて御協力を賜ればありがたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

じゃ、工夫をしていただいて、かわるものをとということで答弁をいただいたということで私も皆さんに説明をしていきたいと思っております。

それから1つだけ、これはなんですけれども、そんな緊急に要するあれはないと、大水のときとか水ではとおっしゃいましたけれども、平成2年のときは本当にあっという間でした。一、二秒を争うような大水の災害でした。ですから、水はそんなには来ないということはないと思いますので、津波と一緒に、とにかく来るときはもう、あそこにおいてみらんとわからんやったですけど、2年のときには本当にすごい速さとあれでしたので、私は。

じゃ、市長の考えを、これからどういうふうにするかできるかを皆さんに楽しみに待っていただくようにしていきたいと思っております。

それからもう1つ、この安全・安心なまちづくりの防災についてですけれども、先ほど来より共助をすることは必要だということたくさん出ております。私もそう思います。本当に何かあった場合には、隣近所、そして、やっぱり同じ地区で助け合わないとどうにもされない、助けを待ったんではどうにもされない。そのために、ハザードマップを作成している途中だと思っております。

今、総合計画の中で見ておりましたら、ただいまハザードマップは11地区ができていると載っております。それから、2016年には完全に全部ができるようにしようじゃないかという目標を立てられております。このハザードマップは、これも私もかかわってして思ったんですけど、本当に大事なことだなと思えました。2年かかりましたけれども、区長さんを中心につくりましたけれども、本当にこれをつくる段階ではいろんな方の力をかりて、みんなで作りました。そのおかげで、私たちの今の久津具は安心しております。このときはこの人のところに行かんばいかん。そして、この人とこの人に連絡をして、この道通ってここに逃げていかんばいかん。それから、水位がここまで来たときには、みんなに避難命令を出す。水位がここまで来たら、みんな車を動かすというふうに決まった。本当に安心しております。

そのハザードマップを2016年までとっておいたら随分ありますので、その早める計画とかはないのかなと思ってお尋ねしたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

まず、私どもで考えていますのは、久津具でもつくっていただいております自主防災組織、これを全市的に設立していただきたいということで、これはできましたら3年以内にでも全区に設立していただければなというふうに思っています。そこを中心に、先ほどおっしゃいましたハザードマップ、特に避難場所とか避難経路とかを図示したような、地図上に落とし込んだ形でのハザードマップをその自主防災組織を中心にして作成をしていくように今後とも協議をしていきたいというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

計画の見直しで早めていただいたこと、うれしく思いますが、それをつくるときに、私たちがつくるときには国土交通省とか行政の方の手助けをしていただいたんですけども、行政としてはどのような計画でハザードマップ作成、自主防災作成をするようにされていますか、計画をお聞きしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

自主防災組織につきましては、先進地事例を参考にしながら、それぞれの区長会等に出向きまして設立の要請を行っております。模範となりますのは、片白とか久津具とか、こういった先進の事例を参考にしながら、ぜひこういった形での自主防災組織の設立をということで、現在も協議を進めているところでございます。

ハザードマップにつきましても、これも先進地、片白、久津具でございますので、国土交通省とも、河川事務所とも、土木事務所等々とも協議をしながら、参考にしながら今後そういう各地区でハザードマップをつくっていききたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

なかなか、やっぱりつくるとなると大変だったんです。ですから、どうしてもリーダーシップを行政の方にとっていただかないとできないので、その点の計画をと思っておりましてけれども、今からされるとは思いますが、どうしても行政のほうで引っ張っていただかないとできないところがありましたので、そのような計画を、ことしはどことどこにとか、そういう計画を立てていらっしゃるかなと思ってお聞きしたんですけど、そこまではいいませんか。

議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

今、11地区自主防災組織がございますので、まずは現在できているところからスタートしたらどうかというふうに思っています。

ただ、今おっしゃいますように、この年度はどこ地区とか、そこまでの詰めはしておりませんので、現在、自主防災組織ができているところからそういったことで協議を進めていきたいというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

最後にですけれども、じゃ、何年度をめどに完全にと考えていらっしゃるでしょうか、そこだけお聞かせください。

議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

自主防災組織につきましては、先ほど言いましたように3年を目標に設立をお願いをしていきたいというふうに思いますけれども、これは地域の事情もございますので、あくまでも目標としてそういうふうに進めていきたい。

ハザードマップにつきましては目標年次は定めておりませんので、そういった今後設立していただく自主防災組織の皆様方と協議をしながら取り組んでいきたいというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

それでは、私言っているのはハザードマップのことも含めてですので、どうぞ一緒に並行して進めていっていただきたいと思っております。2016年のところをせめて2010年にもできますように、これを頑張って指導をしていただきたいなと思っております。

それから、もう質問を終わりますけれども、たった1秒の違いで武雄市民の命を落とすことがないように、お互いに助け合って、安全・安心、武雄に行ったら災害があっても何があってもみんなで助け合って暮らせるよというようなことができますように、財源について大変難しいとは思いますが、市長はいろんなところに通じていらっしゃるの、どうぞあらゆる検討をして国の補助金でも探していただいて、一日も早く防災をしていただくよう

をお願いしたいと思います。

質問を終わります。